

2019(R1)シカ年度 エゾシカ個体数調整実施計画案(遺産地域内)

A. 知床岬地区

※第3期管理目標：知床岬先端部の約3.2km²(モニタリングユニット M00)における厳冬期の航空調査によるエゾシカ発見密度を 5~10 頭/km² 以下にする。

1. 経緯・課題

- ・2019(R1)シカ年度は、2007 (H19) シカ年度より 13 シーズン目の捕獲。仕切柵整備からは9シーズン目。
- ・生息密度低下と生残個体のスマート化による捕獲効率低下に直面している。
- ・2018 (H30) シカ年度の越冬期(2月27日~3月2日)にヘリコプターを移動手段として実施した、くくりわな(26基、3夜設置)及び待ち伏せ狙撃(射手3名、朝夕1回ずつ)では7頭(くくりわな5頭、狙撃2頭)を捕獲。デントコーンサイレージには誘引効果が認められなかった。誘引餌無しでもシカ道に設置することで捕獲可能なため、今後は餌の輸送労力をくくりわなの増設に充てる事が考えられる。
- ・海明け後、5月に3回(5/15-16、5/24-25、5/30-31)実施した少人数(基本射手1名)の待ち伏せ狙撃では計4頭(3頭、0頭、1頭)を捕獲した。捕獲の機会は夕方に1回というのが現実。
- ・2018 (H30) シカ年度の捕獲終了時点の推定生息密度は、(M00:74-11=63頭 or 先端旋回56-11=45頭) 14.1-19.7頭/km²となり、第3期計画の管理目標は未達成。

2. 方針(案)

- ・厳冬期のくくりわなによる捕獲を実施。捕獲数を増やすため設置基数を40基程度に増やし、6名程度で3~4日間実施する。誘引餌は使用せず、仕切柵の末端や切れ目についたシカ道に設置。銃器は爆音が広範囲に影響するため基本的に使用しない。
- ・試験的に流水期前の12月に船舶で上陸し、くくりわなによる捕獲を実施する。現地での宿泊を伴う捕獲か、日帰りで設置し、翌日に止めさし・回収を行う。12月は海況が安定しないため小規模の捕獲(4名で20基程度)を想定。
- ・文吉湾側の仕切柵末端の袋小路部(文吉コラル)の改修工事を夏期に実施し、自動捕獲装置を利用した囲いわな式捕獲も、前述の厳冬期の現地滞在期間中に実施できるようにする。誘引餌は他エリアで誘引実績のあるヘイキューブを用いる。
- ・流水開け後の少人数待ち伏せ狙撃(1~2名、現地1泊)を4月下旬~5月に3回程度実施する。長距離精密射撃の得意な射手を想定。

※捕獲目標頭数合計：44頭

【2018(H30)シカ年度実績 および 第3期管理目標等を踏まえ設定】

算出根拠：32頭/3.23km² = 9.907頭/km²

63×1.2 - 32 = 43.6

3. 捕獲事業内容(案) (知床岬地区)

①. 流水期前 船舶捕獲 (小規模隊 1~2泊もしくは日帰り数回) (新パターン)

- 期間： 12月に1~2回。1~2泊もしくは日帰り数回。
- 人員規模： 4人程度
- 実施方法： くくりわな
- 個別の課題： 海況が安定しなければ実施できない。ヒグマが冬眠していることが前提条件。

②. 流水期 へり捕獲 (小規模隊 3~4泊) 1回 (2017(H29)シカ年度に近いパターン)

- 期間： 2~3月に1回(航空カウント調査終了後)。3~4泊。
- 人員規模： 6人程度
- 実施方法： くくりわな、文吉コラルを改修した囲いわな
- 個別の課題： 囲いわなはヘイキューブにシカが餌付くかどうか問題

③. 海明け後 船舶捕獲 (小規模隊 1泊) 3回程度 (2017(H29)シカ年度に近いパターン)

- 期間： 4月下旬~5月に3回程度。1泊。
- 人員規模： 2人程度
- 実施方法： 日没前の時間帯に機会を絞った待ち伏せ狙撃
- 個別の課題： 登山者や漁業者に対する周知や安全対策、ヒグマ対策

*死体回収は、最終日または後日船により、日帰りで実施。

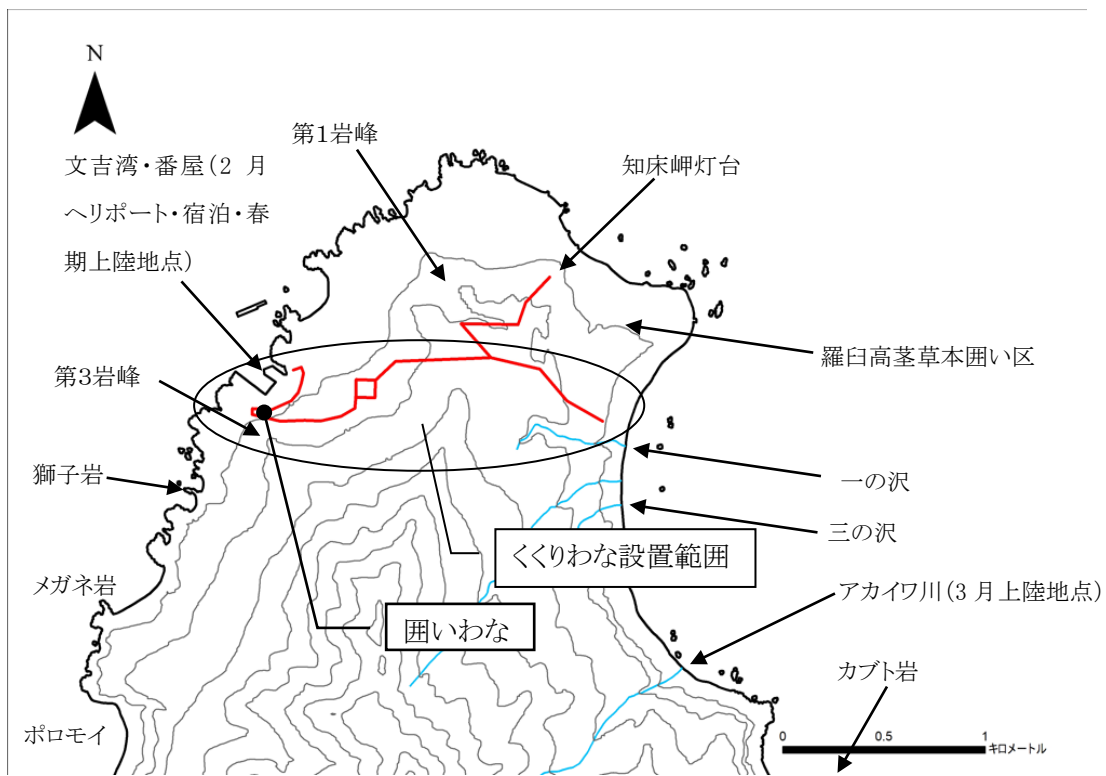


図 6-2-1-1. 知床岬先端部の地図 (赤線が捕獲補助用の仕切柵).

B. ルサー相泊地区

※第3期管理目標:モニタリングユニット R13 の約 24.68km²における航空調査によるエゾシカ発見密度を 5 頭/km²以下にする。

1. 経緯・課題

- ・2018 (H30) シカ年度は、小規模化させた相泊囲いわな (5 年目) で 3 頭、箱わな (2 年目) で 7 頭、くくりわな (3 年目) で 32 頭、3 年ぶりに実施した流し猟式 SS (6 年目) で 38 頭、合計 80 頭を捕獲 (捕獲目標頭数 75 頭以上達成)。
- ・ルサー相泊道道沿いにシカが姿を現さなくなる厳冬期 (1 月下旬から 3 月上旬) の捕獲手法の開発。林内での忍び猟が候補に挙げられるが捕獲個体の搬出が困難。
- ・くくりわな捕獲個体がキツネによる被食を受けやすい。止め刺し後の死体の一時保管施設 (冷凍庫) の確保。
- ・2018 (H30) シカ年度の航空カウント数は R13 で 76 頭 (3.08 頭/km²)。第3期管理目標の 5 頭/km²以下を暫定的に達成済み (R13 = 航空カウント調査区 U12 南部 + U13 + U13s = 24.68 km²)。

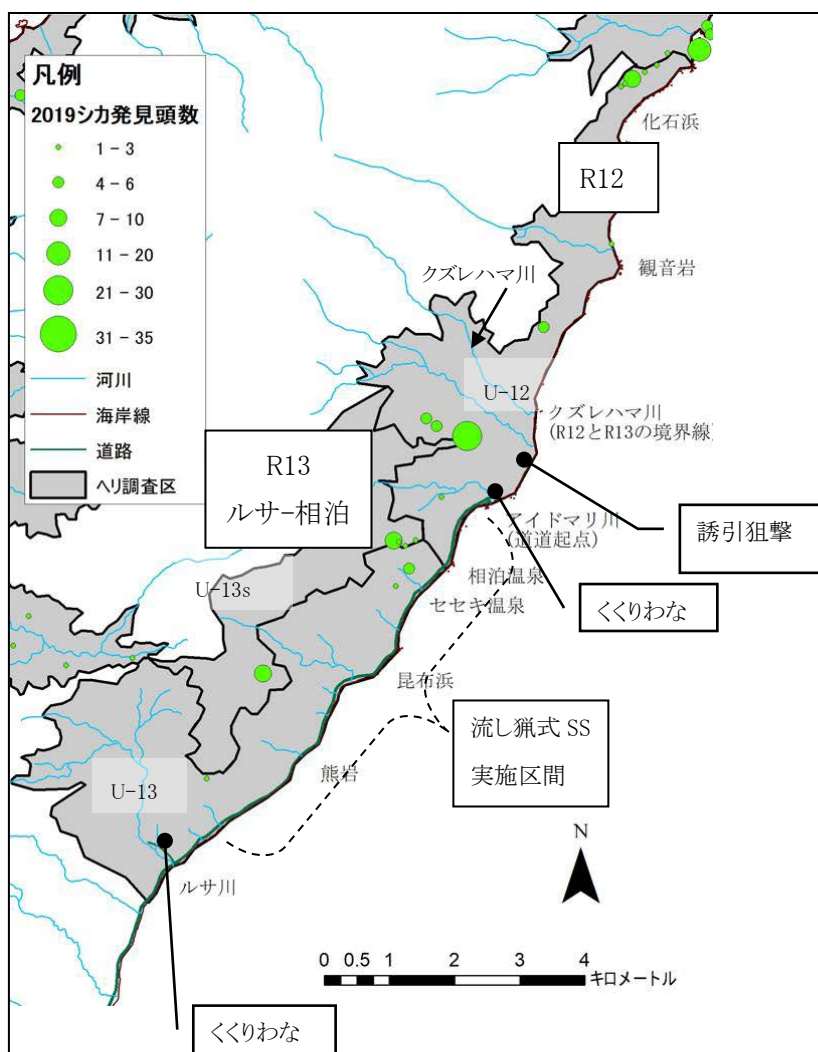


図 6-2-1-2. 2019 年航空カウント調査時のエゾシカ発見位置と R1 シカ年度シカ捕獲実施予定箇所。

2. 方針（案）

- ・12月下旬からルサ、昆布浜、相泊付近で、くくりわなを運用。
- ・4月以降、崩浜南部（カモイウンベ川付近）で待ち伏せ式狙撃を実施。
- ・12月及び3月～4月に流し猟式シャープシューティング（以下、流し猟式SS）を実施。
- ・囲いわなの再設置は見送り。

※相泊以北の船舶利用捕獲は、知床岬の厳冬期へり捕獲と交代で隔年、またはそれ以上の間隔を開けて実施する方針（シカのスレ防止などのため）とし、2019（R1）シカ年度には実施しない。船舶利用捕獲を実施する年には、カブト岩（知床岬の特定管理地区）やペキンノ鼻（エゾシカA地区）での捕獲実施も検討する。

※捕獲目標頭数合計：70頭

3. 捕獲事業内容（案）

①. くくりわな

- 期間： 12月下旬～ わな設置、餌づけ及び捕獲開始。
1月初旬～3月末まで捕獲
- 実施候補地：相泊～カモイウンベ川間の崩浜南部、昆布浜付近、ルサ川左岸周辺（いずれも再設置）。
- 個別の課題：警戒心の高まりに配慮した配置、部外者による攪乱・事故の防止、道道通行止時の対応、止め刺し後の死体の一時保管施設の整備。
- 捕獲目標頭数：30頭（2018（H30）シカ年度くくりわな及び小型箱わな捕獲実績の約8割）。

②. 待ち伏せ式狙撃

- 期間：4月上旬～ 馴致・餌づけ
4月下旬～5月下旬、週1回程度、計6回程度捕獲を実施。
- 実施候補地：崩浜南部（アィドマリ川300m岬寄り付近～カモイウンベ川間）
- 個別の課題：希少猛禽類関係の事前調整、死体の一時保管施設の整備
- 捕獲目標頭数：10頭。

③. 流し猟式SS

- 期間： 12月下旬～1月上旬 週1回程度（計3回程度）捕獲を実施。斜面に姿を現す季節移動中の個体を対象とし、餌づけはしない。
（その後、シカが高標高へ移動する1月下旬～2月末は、捕獲も餌づけも実施しない）
3月上旬、餌づけ誘引実施
3月下旬～4月末、週1回程度（計4回程度）捕獲を実施。
- 実施候補地：道道知床公園羅臼線沿い（北浜～相泊間 約7km：従来の実施区間）

- 個別の課題：道路法面工事との調整、漁業者等への周知。死体の一時保管施設の整備。
- 捕獲目標頭数：30頭（2018（H30）シカ年度実績の約8割）

C. 幌別-岩尾別地区

※第3期管理目標：モニタリングユニットS04の約29.08km²における航空調査によるエゾシカ発見密度を5頭/km²以下にする。

1. 経緯・課題

- ・2018（H30）シカ年度は、小型箱わな（3年目）で33頭、くくりわな（再開1年目）で36頭、岩尾別大型仕切柵（6年目）で13頭、岩尾別孵化場誘引狙撃（6年目）で33頭、岩尾別台地誘引狙撃（3年目）で7頭、百平米運動地作業道SS（4回目）で9頭、合計135頭を捕獲。
- ・2018（H30）シカ年度の航空カウント数モニタリングユニットS04（航空カウント調査区U04西部 + U05 + U06 = 29.08 km²）は130頭。4.47頭/km²となり、前年に続いて第3期管理目標を暫定的に達成済み。ただし局所的に高密度のエリアが残る。
- ・特に同地区西部の幌別（U-06：岩尾別川～幌別川左岸）は観光地（フレペの滝、プユニ岬等）を含むため、大規模な銃捕獲の実施は困難。囲いわな設置適地もほとんど残っていない。道路から0.5～1.0km離れた海岸沿いにまとまった越冬群が残っており、箱わな・くくりわなによる捕獲も難しい状況。
- ・冬眠明けのヒグマによる攪乱等により、捕獲適期のピーク（3月下旬～4月初旬）に十分な捕獲を実施できていない。箱わなへの警戒心が上昇、メス成獣の捕獲比率が低下。

岩尾別

- ・岩尾別川河口右岸の台地上は低密度化に成功していると考えられる。ただしイダシュベツ川方面からの分散と思われる個体が知床五湖近辺に見られるようになっている。大型仕切柵では13頭（オスのみ）捕獲され、前年より頭数が増加。
- ・シカのスマート化が進み、待ち伏せ式の（誘引）狙撃かくくりわなによる捕獲が主体となっている。

幌別

- ・箱わなとくくりわなを広い範囲で多数設置し48頭捕獲。捕獲後も春期のライトカウント調査で最大48頭確認されており、幌別エリアは捕獲圧が十分にかかっている状況。

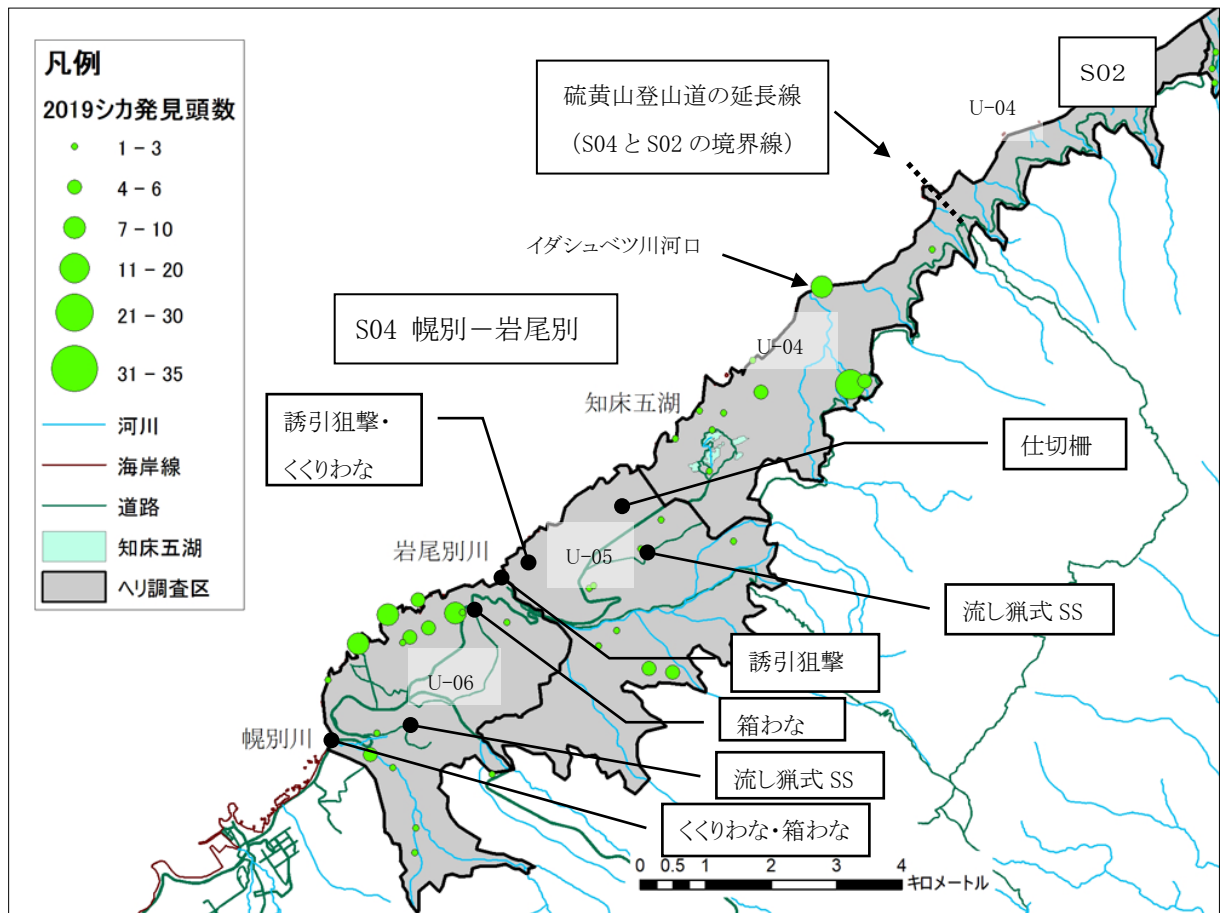


図 6-2-1-3. 2019 年航空調査時のエゾシカ発見位置と H31 シカ年度の捕獲実施予定箇所.

2. 方針 (案)

岩尾別

- ・岩尾別川河口～右岸台地上に集結する群れの捕獲にひきつづき重点を置く。右岸台地上（崖上）の林内・林縁等に設置したくくりわなと、誘引狙撃等の組み合わせによる捕獲を行う。
- ・五湖側からの移動分散個体を捕獲するため、仕切柵での捕獲を低労力で継続する。

幌別

- ・小型箱わな及びくくりわなを主体とした捕獲を実施する。シカの分布や警戒心に合わせて設置場所を移動させる。
- ・幌別川から知床自然センター間、ポロピナイから岩尾別川間に、前年より箱わなとくくりわなを増設（2割程度増）する。

※捕獲目標頭数合計：100頭（2018（H30）シカ年度実績等を参考）

3. 捕獲事業内容（案）

①仕切柵を用いた大型囲いわな式捕獲（既設）

- 期間： 2～3月に餌付け・捕獲
- 実施候補地： 岩尾別地区（海岸側ササ地）
- 仕様等： 大面積のササ地を仕切柵で囲い、囲いわなのようにして捕獲。落とし扉は蹴り糸で落下するように加工。メール送信機能付自動カメラを設置し、捕獲を補助。捕獲個体は原則銃による止め刺し後、死体で搬出する。
- 個別の課題： 近年、メス成獣の捕獲がほとんどなくなっているため、休止期間（例：1～2年毎）を設けることを検討
- 捕獲目標頭数： 6頭（2018（H30）シカ年度実績の半数）

②くくりわな（再設置・積雪期）

- 期間： 1月上旬に設置、1～3月に捕獲（岩尾別台地上では手法④の誘引狙撃と並行して捕獲実施）
- 実施候補地： 岩尾別川右岸側崖上（台地上）の林内・林縁、幌別へアピンカーブ内側など
- 個別の課題： 設置するくくりわなの数、わなの設置位置とアクセスルートの最適化、わな巡回・止め刺し・搬出の省力化、わなの移設頻度、移設距離
- 捕獲目標頭数 18頭（2018（H30）シカ年度実績の半数）

③小型箱わな（再設置・積雪期）

- 期間： 12月に設置、1～3月に餌付け・捕獲
- 実施候補地： 幌別台地東部（ポロピナイ付近）の林内・林縁、プユニ岬（見晴橋）付近の針葉樹林内、幌別川河口右岸側の幌別橋の下：橋脚の陰
- 個別の課題： 箱わなの設置位置とアクセスルートの最適化、わな巡回・搬出の省力化
- 捕獲目標頭数 20頭（2018（H30）シカ年度実績の約6割）

④待ち伏せ式誘引狙撃（積雪期）

- 期間： 1～3月下旬（1月から餌付け、2月から週1回程度捕獲）
- 実施候補地： 岩尾別川河口のふ化場付近、岩尾別右岸側崖上（台地上）の林内・林縁
- 個別の課題： 長時間の待ち伏せによる射手の肉体的・精神的負担の軽減
- 捕獲目標頭数： 20頭（2018（H30）シカ年度冬期実績の約6割）

⑤待ち伏せ式誘引狙撃（残雪期）

- 期間： 3月下旬～4月19日（3月から餌付け、週1回程度捕獲）
- 実施候補地： 岩尾別台地上
- 個別の課題： 長時間の待ち伏せによる射手の肉体的・精神的負担の軽減、冬期通行止め区間の道道に立ち入る利用者等への周知。

- 捕獲目標頭数： 5 頭(2018(H30)シカ年度実績の約 7 割)

⑥運動地流し猟式 SS (・待ち伏せ狙撃・忍び狙撃) (無積雪期)

- 期間： 5～6 月(週 1 回程度捕獲)
- 実施候補地： 幌別・岩尾別台地上、しれとこ 100 平方メートル運動地内の作業道沿い
- 要 素： 餌づけ誘引なし、スマートディアの追加発生を可能な範囲で回避するよう配慮、車両を必ずしも利用しない(待ち伏せ狙撃への臨機応変な切替)、道路入口封鎖
- 個別の課題： 低密度化を維持する手法としての有効性を検討
- 捕獲目標頭数： 10 頭

4. 2019 シカ年度以降の検討課題

- ・低密度状態を効率的に維持するための捕獲の進め方。
- ・イダシュベツ川河口方面からの移動分散個体の対応。知床五湖周辺で捕獲するには冬期観光利用との調整が必要。
- ・フレペの滝～ポロピナイ間(幌別台地上)の海側崖沿い草原地帯で越冬している群れの捕獲の進め方。
- ・道路や遊歩道沿いでの、吹矢や麻酔銃を用いた捕獲。フレペの滝など捕獲圧をかけられないが人慣れた群れに対し、メス成獣を選択的に減らしていくことで群れの繁殖率を下げる。麻酔で捕獲した個体を一時養鹿場に運ぶ方法は、過去にウトロ市街地で実績あり。

表 6-2-1-1. 2019 (R1) シカ年度 遺産地域内におけるエゾシカ個体数調整事業 (案)

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
			シカ季節移動		← 流水期 積雪十分に		→ 猛禽繁殖期		シカ季節移動	
		← 岩尾別～五湖間道道冬期閉鎖 11月下旬～4月下旬								
モニタリング		⇔ スポットライトセンサス (秋期集中)				⇔ 航空カウント調査 (遺産地域内)		⇔ スポットライトセンサス (春期集中)		
A 知床岬	1. 流水期 ヘリ捕獲 小規模・宿泊1回					⇔ 航空カウント後、 宿泊ヘリ捕獲1回(くくりわな主体)			⇔ 死体回収	
	2. 流水期前 船上陸捕獲 くくりわな・宿泊もしくは日帰り		⇔ くくりわな捕獲							
	3. 海明け後 船捕獲 小規模・宿泊3回程度							⇔ 芽吹き時期・宿泊船捕獲3回程度		
B ルサ・相泊地区	1. くくりわな (再設置)				← わな設置	⇔ 餌付け+捕獲	→ ワナ撤去			
	2. 誘引狙撃 (待ち伏せ式) (崩浜南部 新規)							⇔ 馴致・餌付け	⇔ 餌付け+捕獲	
	3. 流し猟式SS (北浜-相泊: 道道知床公園羅白線)	← 道路管理者等 関係機関との調整		⇔ 捕獲	⇔ シカ 道路法面に散在		⇔ 馴致・餌付け	⇔ 餌付け+捕獲	⇔ シカ 道路法面に集中	
C 幌別・岩尾別地区	1. 仕切柵を用いた大型囲いわな式捕獲 (岩尾別台地上)					⇔ 餌付け+捕獲	⇔ シカ海食台地縁、道路法面に集中			
	2. くくりわな (岩尾別台地、幌別台地 再設置)				← ワナ設置	⇔ 餌付け+捕獲 ヒグマの冬眠明けをもって捕獲終了	→ ワナ撤去			
	3. 小型箱わな (ポロピナイ周辺・幌別ブユニ岬)			← ワナ設置	⇔ 餌付け+捕獲 (適宜移設)	→ ワナ撤去				
	4-5. 誘引狙撃 (岩尾別ふ化場通路、岩尾別台地上)				⇔ 馴致・餌付け	⇔ 餌付け+捕獲	⇔ 馴致・餌付け	⇔ 餌付け+捕獲	→ ヒグマの冬眠明けをもって捕獲終了(ふ化場)	
	5. 無積雪期流し猟式SS・忍び狙撃・待伏狙撃 (100平米運動地作業道)								⇔ 捕獲	